

フクジュソウの萎縮症防除対策を確立

本県特産花きの一つであるフクジュソウは、原因不明の萎縮症状で生産量が急激に減少しています。これまでは、細菌、糸状菌類等による病理的要因や高温、乾燥障害等の生理的要因について調べてきましたが、その原因はよくわかりませんでした。

今回の研究で、萎縮症の主原因の一つがソラマメウルトウイルス2 (BBWV-2) によるウイルス病であることを明らかにしました。また、生産現場では優良種苗が不足しているため、その探索とウイルスフリー株の選抜を行いました。さらに、選抜した優良種苗の現地ほ場での増殖法を確立して、優良種苗の供給体制を整備しました。



萎縮症状を発症したフクジュソウ、病原ウイルスはBBWV-2です。



現地圃場における優良株の探索と選抜



選抜したウイルス無感染株の現地増殖



小川町の共同ほ場から各農家に配布された優良種苗(左：1年栽培株、右：2年栽培株)

(農林総合研究センター 生物機能担当 TEL 0480-21-1113)